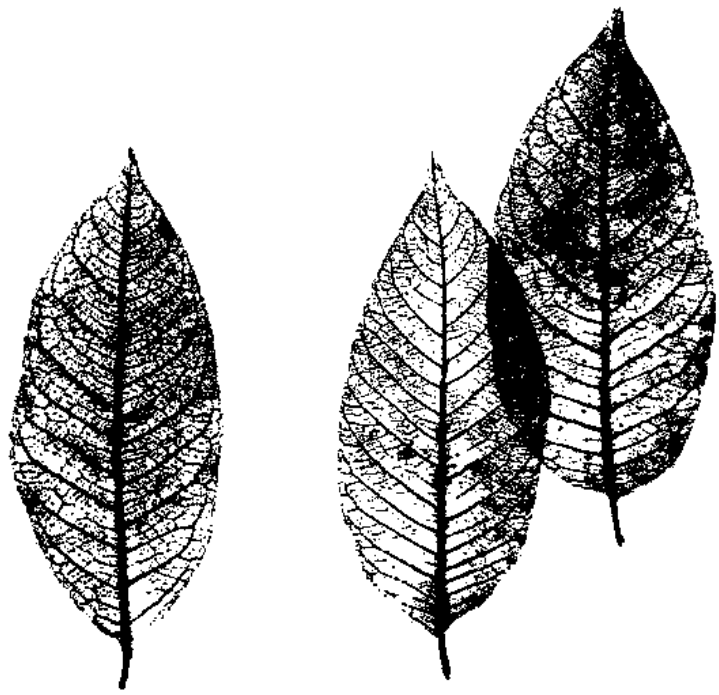
ザルツブルクの小径

ヨーロッパ「音楽と食彩」の旅

小塩　節

知恵の森文庫



ザルツブルクの小径（こみち） ヨーロッパ「音楽と食彩」の旅

小塩 節（おしお たかし）

2005年5月15日　初版1刷発行

発行者—加藤寛一
印刷所—堀内印刷
製本所—フォーネット社
発行所—株式会社光文社
〒112-8011 東京都文京区音羽1-16-6
電話　編集部(03)5395-8282
販売部(03)5395-8114
業務部(03)5395-8125
振替　00160-3-115347

© takashi OSHIO 2005
落丁本・乱丁本は業務部でお取替えいたします。

ISBN4-334-78360-0 Printed in Japan

㊐本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

ザルツブルクの小径

ヨーロッパ「音楽と食彩」の旅

小塩 節

序にかえて

今年も夏八月、信州の木崎湖畔に出かけるだろう。伝統の木崎夏期大学に出講を命ぜられているのだ。辛いけれど、仕方がない。

一日のきびしい勉強が終わると、松の木かげに椅子を持ち出し、西の山々のかなたに陽が沈んでいくのを見やりながら、私は何枚かのCDを取り出して聴くだろう。松の梢にときたま風の音がする以外は、いっさいの人工的な物音のしない大自然のなかで、音楽に静かに耳を傾けるのは、何にもかえがたいぜいたくそのものである。

そのためには、空中に拡散して駄目になってしまうような、ふつうの音楽ではいけない。狭い部屋のなかでなくて、大自然のなかでそっと小さい音量にしぼっても、たしかな存在を確立しうる音楽。石造りの会堂やコンクリートの建物のなかに逃げこま

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

なくては聴くにたえぬ、そんなものでなくて、大自然のなかでそっと奏でても、びくともしない強さとやさしさを持った音楽。わめきたてるようなものではない。そういう音楽がありうるのだ。

私にとって、そういうやさしくて強靭な音楽といえば、まず何よりもモーツァルトのホルン協奏曲四曲だ。とくに昔「三番」と呼ばれていた変ホ長調K四四七。

ホルンという楽器は手にとることもかなわぬ音痴の私なのだけれども、この曲の静かな豊かさと言おうか、つややかな音色と微妙な転調、青く澄んだ大空や深く静まり返った湖面を渡る風のような、力みを知らぬ朗々たるメロディー。それらが一気に私の心をとらえる。これはすべてのホルン曲のなかの、絶品と申してよかろう。

何枚かCDがあるが、ヘルマン・バウマンのナチュラル・ホルンであれば言うことはない。

――信濃路には、秋が早くやってくる。夏のはずの八月に肌に沁みる寒さは、心にまで入ってきて私をかなしくさせる。そんなときに聴くであろうのは、クラリネット五重奏曲イ長調K五八一だ。親しかったクラリネット奏者のアントーン・シュタードラーのために、モーツァルトが一気に書いた曲だが、何という気品に満ちた美しい音楽だろう。ただ美しい、と言ったのでは相済まぬ思いがする。

モーツァルトはすべての楽器を完全にマスターしているけれども、とくにクラリネットが好きだった。愛していた。オーケストラの曲のなかでも、ピアノ・コンチェルトでも、クラリネットはいつもたのしく鳴りひびく。しかし晩年（若くして世を去ったモーツァルトに「晩年」ということばは、ふさわしくないのだろうか）のモーツァルトの、この世のものとは思われない、哀しみにあふれているような、ひたすらな美しさ。それがこのK五八一のクラリネットである。

モーツァルトは、どうしてこうも美しい音楽を創って人類にのこしていったのだろう。このようなことが、地上の人間に可能なのだろうか。地球がほろびるときも、西の空にこの曲はいつまでも鳴っていることだろう。すると、きっと、むごくきびしい天上の神さまも、思わず胸をつかれてしまうだろう、この曲の美しさに。――私にはそんなふうに思えてならない。

私自身の地上の生も、けっして無限に長く許されているわけではない。のこりの日々は、もはやそう長くはあるまい。我が人生を振り返り見て物言う境地には、まだまだないけれども、日々恥多き人生である。しかし、それにもかかわらず信濃路の澄み切った空のもと、緑の木かげで、モーツァルトのホルンとクラリネットを、かりに金属的なCDであっても聴きうる幸せは、ほんとうにありがたいことだと思う。

そしてこの勤めが終わったら、たとえ短くてもザルツブルクに向けて出かけてこよう。僅か十日でも異郷に旅をすることは、生命の活力をうることである。ましてそれがモーツァルトの生地であれば、何という幸せだろう。このような折々の旅の記録のいくつかを、ここにお届け申し上げよう。

ザルツブルクの小径　目次

序にかえて　3

I　楽しいカフェ

楽しい旅のカフェテリア　18
ドイツの食卓　22
ウィーンのカフェ　30
「おいしい」の一言　38
ライン河畔のケルン　41
お魚の皮　54
吠える犬　58

II 食彩と名作の旅

ギリシア――永遠の海とオリーブの大地 62
セーヌ河畔の秋 68
『ローマの休日』 74
花のフィレンツェ 80
ベルギーのアントワープ 85
ゴッホが光を求めた南仏アルル 91
デンマークのクロンボール城 96
自由都市リューベック 102
ヘッセの故郷カルプ 108
ワイン頌 113
『嵐が丘』 117
アイルランドの首都ダブリン、反骨の町 123

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

ロマンチック街道　128
『ヨセフとその兄弟』の旅　134
ヨーロッパの北と南、光と影　154

III

ザルツブルクとモーツァルト

モーツァルトの生まれた町　180
ザルツブルクの小径　186
カール・バルトの『モーツァルト』　194
旅人　モーツァルト　200
希望と失意のウィーン　208
初めてのザルツブルク　219

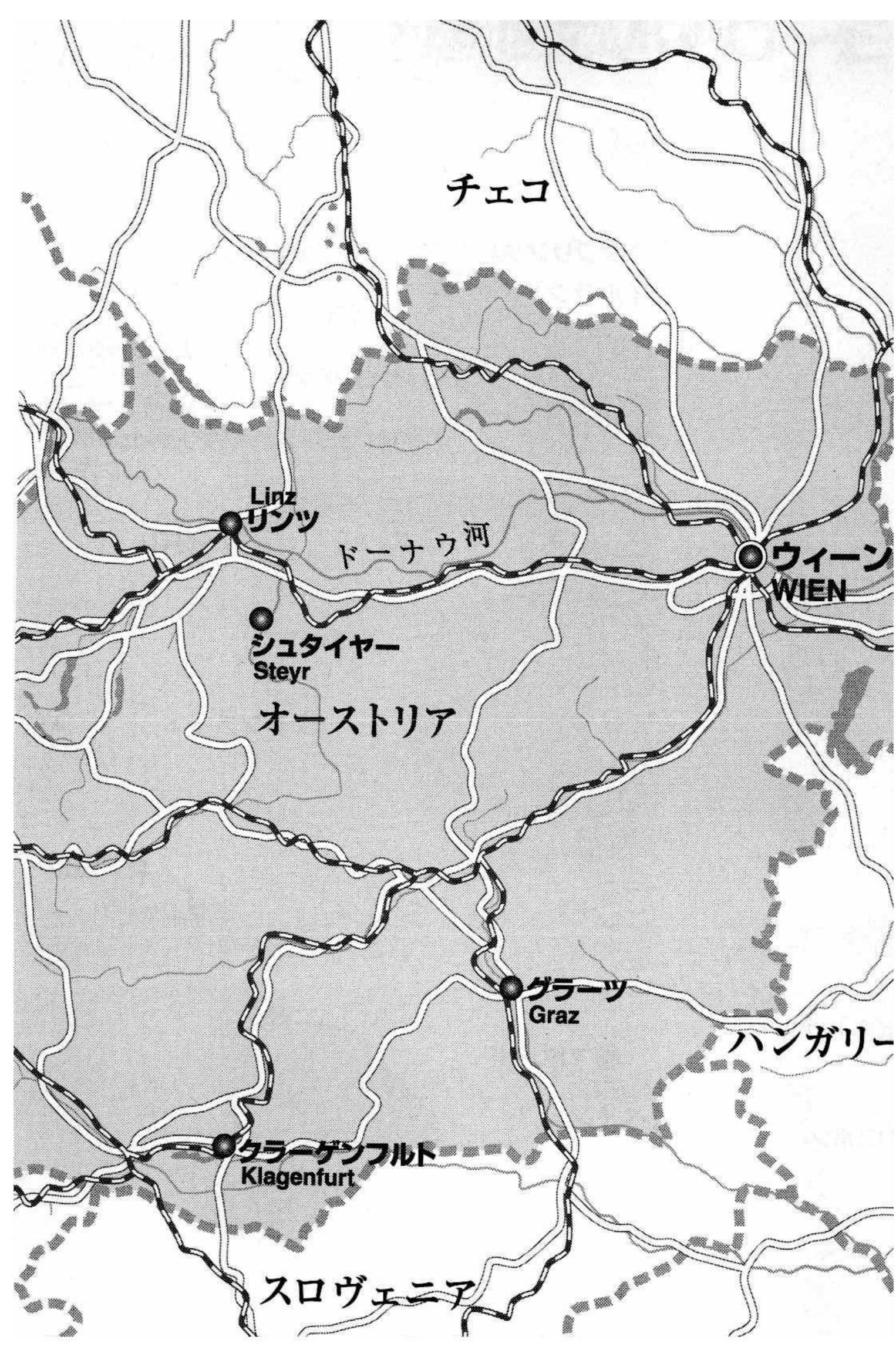
Ⅳ 歌のひびきと人の生の歓びと

二つのM――マーラーとモーツァルト 234
ベートーヴェンの『歓喜の歌』 253
シューベルトと三大歌曲の詩人たち 263
フィッシャー＝ディースカウの『冬の旅』 277
ツヴァイクの『人類の星の時間』 280
ヨーロッパに遣わされて 287
紙芝居 295
あとがき 302
文庫版あとがき 304

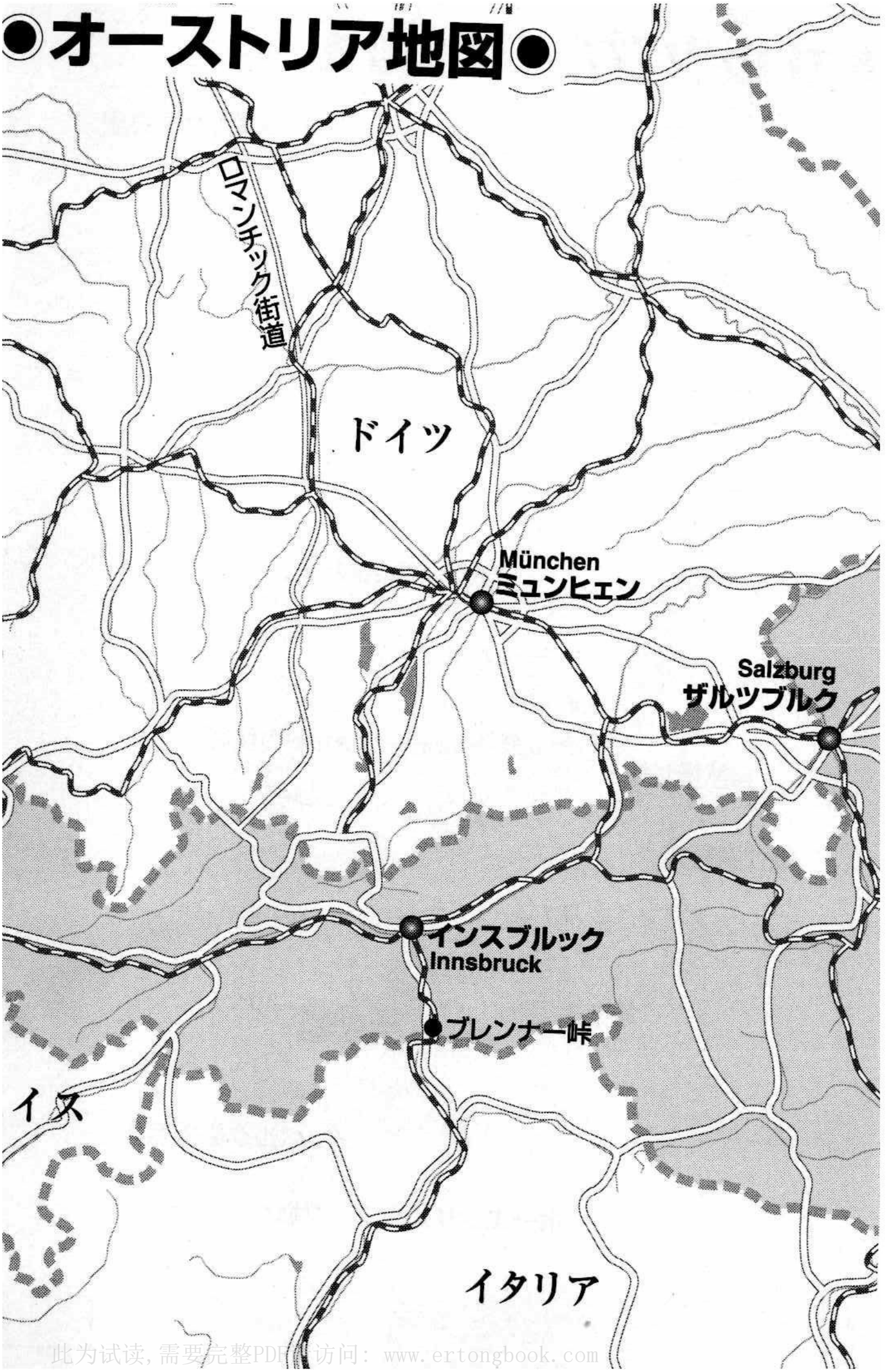
スウェーデン
ラトヴィ
デンマーク
ヘルシンゲル
コペンハーゲン
バルト海
リトアニ
ロシア
リューベック
ハンブルク
オランダ
ベラルー
ベルリン
ワルシャワ
ポーランド
ケルン
ドイツ
ボン
ライン河
ヴュルツブルク
プラハ
チェコ
ローテンブルク
カルプ
ロマンチッタ街道
バーデン・バーデン
スロバキア
ウクライ
ウィーン
ザルツブルク
フュッセン
ブダペスト
スイス
オーストリア
ハンガリー
スロヴェニア
ルーマニア
クロアチア
イタリア
ボスニア・
ヘルツェゴヴィナ
フィレンツェ
ドーナウ河
セルビア・
モンテネグロ
ブルガリ
ローマ
マケドニア
アルバニア
ギリシア
デルフィ
アテネ

◉ヨーロッパ地図◉

北海
ダブリン
アイルランド
ホーウス
イギリス
アムステルダム
ロンドン
アントワープ
ブリュッセル
ベルギー
大西洋
セーヌ河
パリ
フランス
アルル
マルセイユ
ルトガル
マドリード
スペイン
スボン
地中海


チェコ
Linz
リンツ
ドーナウ河
ウィーン
WIEN
シュタイヤー
Steyr
オーストリア
グラーツ
Graz
ハンガリー
クラーゲンフルト
Klagenfurt
スロヴェニア

◉オーストリア地図◉



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com